

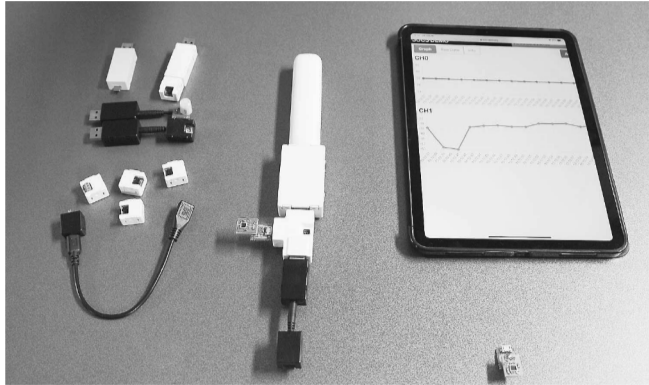


# 新センサーシステム標準化

## SUCCS、商品化で社会実装へ

センサーや通信機器などのデバイスはメーカーごとに仕様が異なり、ユーザーは各デバイスを選択して構成する必要があるが、IoT化のさらなる進展には利便性の高いセンサーシステムが求められる。次世代センサ協議会内のSUCCS（ザックス）コンソーシアムは、各センサーを組み合わせた複合計測システムの社会実装を目指した取り組みを進め、潜在的なセンサーニーズを見据える。

SUCCSは日本発の新しいIoTセンサーフレンドリーIoTセンサーの枠組「グラムレス」で専門知識が必須なセンサーシステム。



センサーユニット例。端末にデータが表示されている



都内で開かれたシンポジウム

センサー、AD（アナログ・デジタル）変換、通信、電源の基本4ユニットを自在に連結して、センサーに必要な機器「センサーングトレイン」を作成できる。

センサー技術の普及と発展のために活動する次世代センサ協議会内の研究会であるSUCCSコンソーシアムが機器接続の標準化に取り組んできた。

使用に際しては測定対象ごとにセンサーを選ぶ。ユニットを交換すれば異なる測定対象に対応可能だ。センサーのアナログ信号をデジタル変換してクラウドに送信。ユーザーはパソコンやスマートフォンなどの端末でデータを閲覧できる。

### メタデータを活用

付帯的なメタデータ（属性情報）を活用するのも特徴

徴の一つ。各ユニットの仕様情報に加え、観測活動・対象の情報やクラウドに蓄積し、センサーシステムの機能最適化のための基礎情報に位置付ける。

社会実装に向けて同コンソーシアムでは、センサーングトレインユニットのプロトタイプを製造するメーカーを募集中。簡単・安価・迅速なセンサーからのデータ取得を実現し、需要拡大・設置を加速させる。

### 無償特許使用許諾権

製造メーカーには無償特許使用許諾権を付与する。最先端のセンサーング技術を確実に習得し、次世代の技術、高効率のSier（システムインテグレーター）協業で新規事業分野への拡充も期待できる。

年内の商品化を計画。商品幅広く使用してもらいためにサブスクリプション（定額課金）で提供する。運営会社の設立も視野に入れている。

IoTやDX（デジタルトランスフォーメーション）化が進む中、基本的な情報を取得するセンサーング

技術が改めて注目されている。非製造業分野や非専門家による同技術の活用もさらに求められる。

2月29日に東京都内で開かれたシンポジウムでコンソーシアムの小林彬代表（次世代センサ協議会会長、東京工業大学名誉教授）は、メタデータについて「しっかりと意識して測定する時代になった。情報が蓄積されれば新しいシステムをつくる計画に生かせる。先が見えてくる。そういう基本的な情報を担う」と説明。

「世の中には膨大で潜在的なセンサーングニーズが存在する。未開拓分野には新しいセンサーング技術が必要。他社のセンサーを相互

に利用できるシステムは、新たなビジネス機会にも即応できる」と語った。

### 関係企業に呼びかけ

現在、コンソーシアムの会員企業はアイフォーク、京栄、AR、S（アーズ）、アスビル、イージーメジャー、KOA、新コスモス電機、東亜ディーケーケー、長野計器、日清紡マイクロデバイス、パシフィックシステムの10社（五十音順）。今後、センサー関連メーカーやシステムインテグレーター、クラウド関連や電源関係の企業に加入を呼びかけるとともに、アドバイザーとしてユーザーサイドの企業や団体の参加に期待を寄せる。